

幼稚園における障害児の集団適応の研究 (その6)

— 障害児の集団適応を促すカリキュラムの検討 II —

平岩定法・赤坂大樹・斉藤美代子・山口延子・小島恵美代・伊藤洋子・加藤道子

(中央女子大学)

(中央女子大学附属幼稚園)

(1) 研究目的

私達は、一連の研究の第4報において、附属幼稚園におけるカリキュラムの特徴の一つを「大きなダイナミックな活動」という要素をもったものであるとした。そして、その具体例として車づくり(120cm×90cm×150cm)を挙げ、大きなダイナミックな活動を必要とするカリキュラムは、集団とのかかわり場面を多く有し、それぞれの発達段階にある子どもの要求に応えることが可能であると分析した。

今回の第6報においては、次の2つを研究目的とした。

① 2つのタイプの自閉性障害児(communication言語を有するタイプと、ほとんどcommunication言語をもたないタイプ)の教材「大きな車づくり」への関わり方を分析することにより、自閉性障害児を受け入れる際のカリキュラムについていくらかの提言をすること。

② 集団適応を促進するカリキュラムについて検討すること。

(2) 研究方法

＜目的①に関して＞ 車づくりの保育記録をもとに研究グループで討論し、微視的レベルにおける保育記録をつくりあげ、それをもとに、障害児の車づくりという課題への関わり方、教師のコトバかけ、障害児と他児との関わり等を分析する(平岩のいう微視的分析の方法)。

＜目的②に関して＞ 附属幼稚園の各学年(年少・年中・年長)の年間カリキュラムの流れを、それぞれの教材などの程度、集団適応発達を促進する要素をもっているのかの視点から分析・検討する。

(3) 結果及び考察

① 車づくりへの関わり方分析からの若干の提言

事例Yの場合、基本的に車づくりという場の中において、車づくりの工程の流れを時としてはずれたりしながらも、多くの作業工程に参加している。

(表1)「大きな車づくり」への自閉性障害児(事例Yと事例F)のかかわり方についての分析

事例Y	事例F
○円形になり肩を組み車づくりについて相談する。恰好をする。 ○カナヅチ「打たせて下さい」と要求。 ○ドリルで穴あけをする。 ○力の入れ方は不十分であるがペーパーカゲをする。 ○ナンバーをつける。 ○ペンキぬり(ドア)をする。 ○完成後の車には、自分からは乗ろうとしないし、押し戻りもしないで、ふらふらしている。	○車づくりへの要求、意欲表示は不明確。 ○車づくりの場から時々はずれてしまう(三輪車にのったり、側溝をのぞいたり、とり小屋の方へ行ったり)。 ○教師が小さな板を与えること釘うちをする。 ○他のメンバーがペンキぬりをしている時に、車に乗りこみ、ドアを閉鎖して遊んでいる。

Y自身の要求としても、カナヅチで「打たせて下さい」とコトバで要求するなど、かなり明確なものを示している。一方、事例Fの場合、車づくりについての要求は不明確であり、一連の車づくりへのかかわり方から判断して、車づくりという状況が把握できているとは言えない。教師が小さな板を与えることにより釘うちはするけれども、それは車づくりという作業工程の中の釘うちではない。

Yが車づくりに、ほぼ一貫して関心をもちつづけた(笑線ではないが点線としての関心)のに対し、Fの場合は、その関心の示し方は点線にもならず「点」としての関心のもち方であったと言える。やはり、このあたりの違いをもたらすものとしては、communication言語の有無というあたりに関わっているであろう。

Fのようにcommunication言語をもたない自閉性障害児においては、課題の作業過程(工程)が複雑になればなるほど作業全体の状況に関わることは非常に困難となる。車づくりの工程の中にある一つの要素《釘うち》に参加したとしても、それは、全体から切

り離された要素に関わ、たとひのみであり、全体的状況に関わ、たとひとは言えない。

(課題) 設定保育という枠組の中においては、教師は、教材の達成度という評価の仕方にとらわれる。その時、Yタイプのように課題(教材)に対して意欲を示す障害児は、教師をより意欲的にさせるであろうし、逆にFのようなタイプは、教師の意欲を消滅させることも多くあると思われる。

才4報でも述べたように、大きなダイナミックな活動は、たしかに、多くの要素を含んでいるので、113113な発達水準の子どもへの適用可能性をもって113が、教師の側において、子どもに合わせた教材のみみくべきが出来ないと、大きなダイナミックな活動がもつ負の面(例えば、車づくりの場合であれば、板を切

スリ、釘をうち、ペーパーをのけ……という素雅な常識的なプロセスにとらわれやすく自由な発想をしにくいということ)が強く出てしまうことにもなる。

課題にとらわれない保育の場面において子どもを、ゆとりと観察していると、Fのように設定状況とのCommunicationが苦手をタイプであっても、状況によっては、かなり適応的な行動でもって状況にかかわれることがあることを発見する。子どもに合った教材のみみくべき(学識的な枠にとらわれな113のみみくべき)をするためには、教師として、そういう場面を十分にとらえていなければならぬ。

大きなダイナミックな活動にとり組む時、課題の作業工程の多さに目をとられ、きめ細かな子どもへの対応を忘れてはならぬ。

③集団適応を促進させるカリキュラムについて——年間カリキュラムの流水の検討から——

(表2) 1983年度・年中カリキュラムの中心的なもの

4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月
石、どんぐりあそび 新聞やぶり		カンシャワー、水・ボール遊び		運動会に向けて	秋まつり	木工	
チエッチエッチゴリ	可愛川魚屋以	金踏み		あそびのチャチャ	散歩	仲良し小道	大縄とび
歩いて止まる、走てすべりて、両生類ハイハイ					金魚、カメ、ギョロップ		
手あそび	竹と楽器(父親)	缶叩き			年長の和太鼓		
	苗うえ	任栽培			任ほり		

(表3) 1983年度・年中カリキュラムの中心的なもの

4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月
どんぐり遊び スライム	紙づくり	会宿		運動会	秋まつり	車づくり	
両生類ハイハイ、田んぼハイハイ、カメ、金魚	水あそび				縄とび		とび箱(5段)
メダカ、ヒヨコ、カエル					粘土(輪作り、走てはる人向)		
輪滑車、ハサミの指導							
うねり、苗うえ			草とり				
					任ほり		

(表4) 1983年度・年長カリキュラムの中心的なもの

4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月
こいねり	竹馬のり	虫かご作り	会宿	運動会	秋まつり	大きな車づくり	
		水あそび			とび箱(タテ5段)		
粘土						傾り転	
	カラフル楽器					なわとび(個人・大縄)	
任			和太鼓		和太鼓		
任、和太鼓の指導				ピアノ			
とび箱、お、のろこ			自由な活動	草とり	先生への挨拶	朝・晩の挨拶	年長会